

平成27年度公益社団法人瀬戸内海環境保全協会事業報告書

今年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、次の方針のもと事業を展開する。

「瀬戸内海の環境保全・創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

(1) 瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供

(2) 瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究

(3) 瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信

の中心的な役割を目指して事業を進めることとする。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に関係する府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「(森・川・海の)流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会議との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図っていく。

I 事業

1. 瀬戸内海の環境保全・創造に関する普及啓発、活動支援及び情報収集・提供

(1) 普及啓発・活動支援

① 瀬戸内海環境保全月間事業の展開(昭和52年度～)

[1,578千円]

瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

ア、平成27年度瀬戸内海環境保全月間(期間：平成27年6月1日～30日)ポスターの配布・掲示

平成26年度に公募し、選定された最優秀作品を平成27年度瀬戸内海環境保全月間ポスターとして作成、関係機関に配布し、瀬戸内海環境保全月間に広く掲示した。

・配布枚数：5,000枚

[平成27年度瀬戸内海環境保全月間ポスター最優秀作品・優秀作品]



最優秀賞 中尾拓人(小学生) 優秀賞 武知将生(小学生)
(徳島県吉野川市) (愛媛県伊予市)

優秀賞 花巻 庄司
(青森県十和田市)

イ、瀬戸内海環境保全月間ポスター原画展の実施（平成22年度～）

瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会の瀬戸内海環境保全セミナーに合わせて、協会が保有している瀬戸内海環境保全月間ポスター入選作品の原画を展示し、環境保全の啓発を図った。

- ・日時：平成27年7月30日（木）
- ・場所：ホテルクレメント徳島



瀬戸内海環境保全セミナー



瀬戸内海環境保全月間ポスター原画展

ウ、平成28年度瀬戸内海環境保全月間ポスター募集・選定（平成11年度～）

平成28年度瀬戸内海環境保全月間に向け、環境省と共催で、ポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

- ・作品募集期間：平成27年7月2日（木）～11月30日（月）
- ・ポスター選定委員会の開催：平成28年3月15日（火）
- ・ポスター応募数：一般部門 93件 こども部門 170件 総数 263件

②瀬戸内海環境保全への支援

[3,872千円]

ア、「里海づくり」支援事業の展開(平成23年度～)

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対し、資材（水生生物下敷、水質パックテスト等）を提供し支援を行った。

- 支援対象事業
- ・自然観察会や子どもたちを対象とした体験的学習
 - ・環境ボランティアの人材育成事業

支援府県市：13府県17市

事業実施期間：平成27年7月1日（水）～平成28年1月31日（日）



大阪府「海の教室」



豊中市「自然観察会」

イ、環境保全事業への支援（昭和52年度～）

環境衛生団体や漁業団体が取り組んでいる浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に対し、その活動費用の一部を助成した。

助成団体数：6 環境衛生団体、8 漁業団体

事業実施期間 平成27年4月 1 日（水）～平成28年3月31日（木）

ウ、「瀬戸内オリーブ基金」による瀬戸内海地域の緑化の推進（平成24年度～）

有害産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに、建築家安藤忠雄氏と、豊島事件弁護団長の中坊公平氏らが呼びかけ、植樹等の緑化活動により、瀬戸内海の自然環境を保全していくことを目的とした「瀬戸内オリーブ基金」を活用し、正会員が瀬戸内海周辺一帯及び流域で行う植樹・育苗等の自然再生、地域再生にかかる緑化事業に協力した。

- ・平成 27 年度助成：3 団体 助成額 2,540,000 円
- ・平成 28 年度助成：5 団体 助成額 2,563,000 円（＊保留 1 団体）

③環境保全研修の実施

[6,078千円]

ア、瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施（平成10年度～）

団塊の世代の退職に伴い、環境技術の継承が求められており、新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内法や排水処理技術、瀬戸内海の新たな取り組みについて、研修を行った。

- ・日時：平成27年10月21日（水）～23日（金）
- ・場所：岡山県 岡山県国際交流センター、日生港周辺
- ・参加人数：28名（10府県14市3団体）
- ・講義：大きく変わる瀬戸内海の環境管理ーパイオニアとしての新たな挑戦ー

講師 広島大学 名誉教授 松田 治

瀬戸内海の環境保全の動向

講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室 室長補佐 石川拓哉

瀬戸内海の藻場・干潟と海洋環境ーその現状と機能ー

講師 瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 藻場・干潟グループ長 吉田吾郎

複雑系としての生態系をどうとらえるか

講師 広島大学大学院 教授 山本民次

排水処理技術の概要

講師 (公財) 国際エメックスセンター 主任研究員 梅本 諭

岡山県における環境への取り組みについて

講師 岡山県環境文化部環境管理課

・現地研修

岡山県備前市日生町におけるアマモ場造成の取り組みについて

講師 岡山県農林水産部水産課

・班別討議及び全体討議



現地研修 米子湾の干潟



班別討議

イ、瀬戸内海的环境保全に関する各団体合同研修会の開催（昭和53年度～）

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体と連携を継続・維持していくため、同団体の合同研修会を共同で開催した。

- ・主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議、（公財）福岡県地区衛生連合会、（公社）瀬戸内海環境保全協会
- ・後援：福岡県、行橋市
- ・日時：平成27年11月27日（金）
- ・場所：行橋市 京都ホテル
- ・参加人数：83名
- ・講演：「瀬戸内法の改正について」

（公社）瀬戸内海環境保全協会 常務理事 富岡寛美

- ・体験交流・意見交流：各府県市連合会の実践活動報告

1) 廿日市市佐伯公衛協の取り組み

廿日市市佐伯公衆衛生推進協議会

2) 豊前海干潟と2本の川と地域住民

行橋みやこ衛生連合会

3) 新たな活動拠点として

香月・黒川ほたるを守る会



来賓挨拶 行橋市 田中市長



体験交流・意見交流

ウ、瀬戸内海の環境保全に関する賛助会員等研修会の開催(平成6年度～)

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海の環境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、企業ニーズを踏まえながら研修会を実施した。

研修内容は、前回の研修会参加者へのアンケート結果を踏まえ、賛助会員部会で検討を行い、テーマを決定した。

1) 第1回研修会

テーマ：埋立事業と排水処理

- ・日時：平成27年11月5日（木）
- ・講義・見学：大阪湾広域臨海環境整備センター 神戸沖埋立処分場等
- ・参加人数：43名（うち自治体より2県10市参加）



講義



施設見学

2) 第2回研修会（座学）

テーマ：瀬戸内海環境保全特別措置法の改正と今後の環境保全・創造について

- ・日時：平成28年3月28日（月）
- ・場所：兵庫県民会館
- ・参加人数：63名（うち自治体より6府県8市参加）
- ・基調講演：大きく変わる瀬戸内海の環境管理についてーこの機会をどう生かすかー

講師 広島大学 名誉教授 松田 治

- ・講演：瀬戸内海環境保全特別措置法の改正と今後の水環境行政について

講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室 室長補佐 石川拓哉
瀬戸内法の改正と今後の沿岸域管理について

講師 広島大学環境安全センター センター長・教授 西嶋 渉
瀬戸内法の改正と栄養塩管理の方向性について

講師 京都大学 名誉教授 藤原建紀

④環境保全事業への参加・協力

[2,104千円]

ア、環境イベントへの参加・協力

他団体が主催する環境イベントにおいてパネル（里海・瀬戸内海フォトコンテスト入選作品等）の展示、資料配布、スナメリのマスコットイラスト「ほのぼのん」を活用した、クリアケース等の配布を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報に努めた。

- ・ひょうごエコフェスティバル2015（平成27年11月14日（土）～15日（日）淡路市）に出展し、環境クイズ、チリメンモンスター探しゲーム等による広報活動を行った。

配布数：クリアケース 170枚

イ、会員等主催事業への支援

会員及び関係機関が主催する各種環境保全事業へのパネルの貸出などの支援を行った。

貸出実績：（特非）瀬戸内海研究会議

瀬戸内海研究フォーラムin奈良 平成27年9月3日～9月4日

ウ、環境NGO・NPOとの連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO・NPOとの連携や支援を行った。

- ・「ほっといたらあかんやん！第12回大阪湾フォーラム」（平成28年3月5日（土））の後援

⑤KJB瀬戸内基金の管理・運営(平成19年度～)

[5,094千円]

瀬戸内海の環境保全等に取り組む環境NGO・NPOを支援するため、フィリップ モリス ジャパン株式会社が提唱する「keep Japan beautiful～日本をエコひいきしよう～」の一環として、瀬戸内海地域における環境美化・保全活動に取り組む市民団体の活動や事業の助成・支援を行うため設立した「KJB（keep Japan beautiful）瀬戸内基金」の管理・運営業務を行った。

- ・平成27年度KJB瀬戸内基金助成

募集期間：平成27年2月10日（火）～3月6日（金）

応募総数：44団体

助成総数：20団体 助成総額：3,600千円

- ・平成28年度KJB瀬戸内基金助成

募集期間：平成28年2月15日（月）～3月4日（金）

応募総数：35団体

採択総数：5団体 助成総額：2,000千円

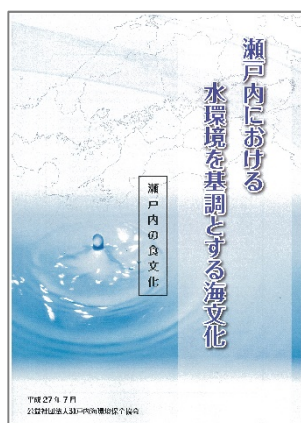
⑥海文化事業の推進(平成24年度～)

[3,839千円]

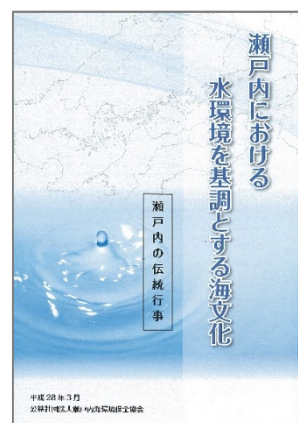
瀬戸内海がもつ自然や歴史、食文化等多様な地域資源を背景に、瀬戸内海で結ばれている地域住民の生活・文化の交流を通じて、環境保全への一層の意識醸成を図り、「豊かで美しい瀬戸内海」を実現するため、海文化委員会を開催し鷲尾圭司（水産大学校理事長）など有識者の意見を聞きながら検討を進めた。

平成24年度～26年度に検討を行い、とりまとめた瀬戸内海の水環境の変遷と湾・灘ごとの海文化（食文化）について、冊子化し、協会のHPに掲載した。 本編・資料編 各200部

平成27年度は、「海に関する伝統行事」に関する情報収集・整理を行い、冊子化した。200部



瀬戸内の食文化（本編）



瀬戸内の伝統行事

⑦瀬戸内海環境保全に関する関係府県市・団体との連携

[3,031千円]

ア、瀬戸内海再生に向けた取組みの推進

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等、豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策が総合的、計画的に推進されるよう、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、種々の取組みを進めている。

瀬戸内海環境保全特別措置法の一部を改正する法律が平成27年10月2日に公布されたことから、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等関係団体と連携して次の事業を行った。

- ・瀬戸内海環境保全特別措置法改正記念のつどい

日時：平成27年12月18日（金）

場所：都市センターホテル（東京都）

参加人数：133名

- ・瀬戸内海環境保全特別措置法改正記念シンポジウム

日時：平成28年2月8日（月）

場所：兵庫県公館

参加人数：230名

講演：瀬戸内海環境保全特別措置法改正の概要について

講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室 室長 根木桂三

瀬戸内海の多面的理解と付き合い方

講師 独立行政法人水産大学校 理事長 鷲尾圭司



瀬戸内海再生議員連盟 末松事務局長



講師 (独) 水産大学校 鷲尾理事長

イ、国に対する提案(昭和52年度～)

栄養塩の適正管理や藻場、干潟の保全等、単独の府県だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むため、国に提案を行った。

- ・ 提案日：平成27年7月15日（水）～7月30日（木）
- ・ 提案先：環境省(24人)、水産庁(12人)、財務省(22人)、国土交通省(28人) 計86人

(提案事項)

・ 施策の推進

- (1)瀬戸内海的环境保全・再生・創出のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業並びに新たな視点での水環境を基調とした海文化を通じた環境啓発事業の推進
- (2)瀬戸内海特有の景観を活用し、エコツーリズム推進法に基づいたエコツーリズムを行うことにより、島しょ部等地域が持つ特有の魅力の再評価及び地域の活性化を図る事業の推進
- (3)瀬戸内海的环境データの収集とデータベース機能の充実
(特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報)
- (4)漁業が持続可能な豊かな海づくりのための適切な栄養塩濃度レベルの維持及び円滑な物質循環の確保に向けた湾・灘ごと等の地域の実情に応じたきめ細やかな水質管理や順応的な取組の推進
- (5)底質並びに湾奥部の環境改善の推進
- (6)藻場、干潟及び浅場の保全・再生・創出の推進
- (7)赤潮発生メカニズムの解明と防止対策の推進
- (8)海ごみの処理対策の推進
- (9)水質浄化に寄与する二枚貝等を捕食する有害生物対策の推進

・ 調査研究並びに実践活動

- (10)瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研

究

- (11)生物多様性の確保及び水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等瀬戸内海を里海として再生するための調査研究
- (12)瀬戸内海における栄養塩類の適正な管理や藻場・干潟が水環境に及ぼす役割の解明など、物質循環の健全化を通じた良好な水環境の実現に向けた調査研究
- (13)瀬戸内海の自然環境及び水環境保全並びに浮遊・漂着・海底ごみ等に関する調査研究
- (14)瀬戸内海における有害化学物質等による環境影響に関する調査研究
- (15)瀬戸内海における外海からの環境影響に関する調査研究
- (16)気候変動（海水温上昇等）に伴う生態系や水産業に与える影響の調査研究
- (17)外来種侵入に伴う生物多様性や水産業等に与える影響の調査研究
- (18)栄養塩類や土砂の供給にかかる河川・森林機能に関する調査研究
- (19)瀬戸内海環境情報基本調査の継続実施
- (20)瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取り組み（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
- (21)地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）
- (22)瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動に対する支援

ウ、賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進を図るため、研修会の充実やセミナー等での広報に努めた。

エ、瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（平成25年4月1日設立）の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進について支援・協力を行った。

- ・瀬戸内海研究フォーラムin奈良（平成27年9月3～4日（木～金））への後援、開催協力
- ・瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ（平成27年11月30日（月））への後援、開催協力

オ、国際的な活動への協力

（公財）国際エメックスセンターが行う国際的な行事について、協力を行った。

- ・エメックス国際セミナー「世界の閉鎖性海域～自然生態系と人間活動の調和を目指して～」（平成27年6月19日（金））への後援

(2) 情報共有・発信事業

瀬戸内海の環境保全にかかる現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し共有した。

①総合誌「瀬戸内海」の発行・配布（平成6年度～）

[5,690千円]

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホ

ホームページに掲載した。

- ・発行回数：年2回

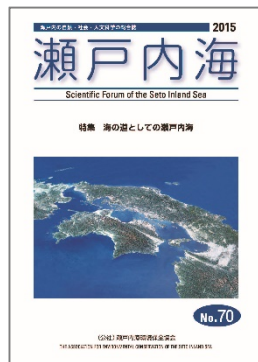
第70号：平成27年10月発行 1,000部、CD-ROM

特集 海の道としての瀬戸内海

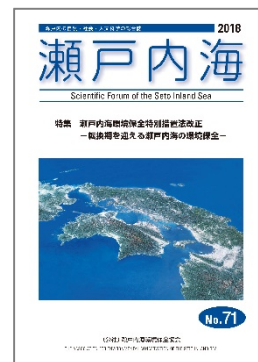
第71号：平成28年3月発行 1,000部、CD-ROM

特集 瀬戸内海環境保全特別措置法改正－転換期を迎える瀬戸内海の環境保全－

- ・無償配布：会員団体（冊子及びCD-ROM）
- ・有償配布：年間購読者等（冊子のみ） 年間購読料 2,500円（税込み）



「瀬戸内海」第70号



「瀬戸内海」第71号

②資料集「瀬戸内海の環境保全－平成27年度版－」の発行・配布(昭和53年度～) [4,698千円]

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、資料集「瀬戸内海の環境保全－平成27年度版－」として発行・配布した。

平成28年3月発行 冊子 750部、CD-ROM 140枚

- ・無償配布：会員団体（冊子及びCD-ROM）
- ・有償配布：会員以外（冊子のみ）

③協会ホームページによる情報の発信(平成10年度～)

[1,603千円]

瀬戸内海の環境保全に関する環境学習情報等を広く一般の方も容易に入手できるとともに、環境保全に取り組むNPOのネットワーク化にも役立つよう情報を発信した。

④メールマガジンによる情報の発信(平成23年度～)

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、情報共有や施策立案等だけでなく、会員を通じた普及啓発に資する情報発信を毎月1回（15日）行った。

2. 瀬戸内海の環境保全・創造に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業

豊かで美しい瀬戸内海実現に資する調査・研究事業について、環境省等からの受託など外部資金の獲得を目指し活動を行い、次の事業をいであけと共同で受託した。

①平成27年度瀬戸内海環境情報基本調査及び豊かな海の確保に向けた方策検討業務（平成27年

瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域では、水質汚濁防止法や瀬戸内海環境保全特別措置法による汚濁負荷量の削減等の取組が進められた結果、その水質は全体として改善傾向にある。一方で、赤潮や貧酸素水塊の発生といった問題も依然として確認されており、また、「豊かな海」の観点から、生物多様性・生物生産性の確保や栄養塩類の適切な管理等の重要性が指摘されるなど、新たな課題への対応が求められている。

そのため、閉鎖性海域をめぐる新たな課題に対応するため、下記の項目を調査、検討する。なお、底質や底生生物の実態把握調査については、平成17年度まで実施された瀬戸内海環境情報基本調査と同じ内容で行われるもので、今年度は大阪湾、紀伊水道、播磨灘、備讃瀬戸を対象として調査する。他の海域の調査は平成28年度以降継続して行われる予定である。

<調査検討項目>

- ア 底質調査及び底生生物調査
- イ 湾・灘ごとの変化状況に関する総合分析
- ウ 栄養塩類の底質の蓄積・溶出メカニズムの解析手法の検討
- エ 湾・灘ごとの実情に応じた、きれいで豊かな海の確保に向けた方策に関する検討

本業務においては下記の委員で構成される有識者検討会が設置されている。

(委員長 広島大学教授 西嶋渉、委員 西田修三他6名、関係機関として各府県の環境担当13名、水産庁)

第1回有識者検討会(平成27年6月11日(木) 兵庫県民会館)

①有識者検討会の進め方(座長に西嶋渉広島大学教授を選任)、②底質調査及び底生生物調査並びに栄養塩類の底質からの溶出量の推定手法、③湾・灘ごとの変化状況に関する総合分析、④湾・灘ごとの実情に応じた、きれいで豊かな海の確保に向けた方策について審議いただいた。

第2回有識者検討会(平成27年10月16日(金) 岡山コンベンションセンター)

①底質調査及び底生生物調査の実施状況、②底質からの栄養塩類の溶出量の推定手法、③湾・灘ごとの変化状況に関する総合分析、④きれいで豊かな海に関する取り組みに関する情報収集結果について審議いただいた。

第3回有識者検討会(平成28年1月20日(水) CIVI研修センター新大阪東)

①底質及び底生生物の調査結果、②底質からの栄養塩類の溶出量の推定手法、③湾・灘ごとの変化状況に関する詳細分析、④きれいで豊かな海の確保に向けた工程表について審議いただいた。

第4回有識者検討会(平成28年3月3日(木) 神戸市教育会館)

①底質及び底生生物の調査結果、②底質からの栄養塩類の溶出量の推定手法の検討結果、③湾・灘ごとの変化状況に関する総合分析及び詳細分析結果、④きれいで豊かな海の確保に向けた工程表の検討結果について審議いただいた。

Ⅱ 一般事項

1. 会議等の開催

(1) 総会

① 定時総会（平成27年5月19日（火） ホテル北野プラザ六甲荘）

- ・ 平成26年度事業報告及び決算
- ・ 会費の額
- ・ 常務理事の報酬
- ・ 国に対する提案
- ・ 役員（理事）の改選
- ・ 平成27年度事業計画及び収支予算
- ・ 特別講演会

海の栄養環境と食文化の変遷

講師 独立行政法人水産大学校 理事長 鷲尾圭司

(2) 理事会

総会付議事項及び業務の執行に関する事項を協議する。

① 第5回理事会（平成27年5月7日（木） 神戸市勤労会館）

- ・ 専門委員会委員の委嘱
- ・ 定時総会の招集
- ・ 定時総会付議事項

② 第6回理事会（平成27年5月19日（火） みなし決議）

- ・ 会長（代表理事）の選定
- ・ 副会長の選定
- ・ 常務理事（業務執行理事）の選定

③ 第7回理事会（平成28年3月11日（金） 三宮ターミナルホテル）

- ・ 平成27年度収支予算の変更
- ・ 平成28年度事業計画及び収支予算
- ・ 職員給与規則の一部改正

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

協会の事業推進のための検討、協会設立40周年記念事業の検討及び平成28年度事業の検討・企画を行った。

第5回企画委員会（平成27年9月18日（金） 兵庫県民会館）

- ・ 平成27年度事業実施状況について
- ・ 協会設立40周年記念事業について

第6回企画委員会（平成28年2月22日（月） 兵庫県民会館）

- ・平成27年度事業実施状況について
- ・平成28年度事業計画案及び収支予算案

②編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の編集方針を定めるとともに、特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行った。

第1回編集委員会（平成27年7月8日（水） 兵庫県民会館）

- ・「瀬戸内海」70号の原稿収集について
- ・「瀬戸内海」71号の特集について

第2回編集委員会（平成27年12月1日（火） 兵庫県民会館）

- ・「瀬戸内海」71号の原稿収集について
- ・「瀬戸内海」72号の特集について

③海文化委員会

海文化事業の推進を図るため、情報の活用方策の検討を行った。

第1回海文化委員会（平成27年9月18日（金） 神戸市教育会館）

- ・平成26年度海文化（食文化）の検討経緯について
- ・平成27年度海文化の検討テーマ（伝統行事）と今後の検討項目について

④賛助会員部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

第1回賛助会員部会（平成27年7月23日（木） 兵庫県民会館）

- ・平成27年度事業等について

部会委員：関西電力㈱、川崎重工業㈱、㈱神戸製鋼所、マツダ㈱、四国電力㈱

いであ㈱、㈱大塚製薬工場、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

（平成28年3月17日（木） ラッセホール）

- ・平成27年度事業実施状況及び収支補正予算
- ・平成28年度事業計画及び収支予算
- ・平成28年度国への提案事項案 等

2. 専門委員の委嘱

企画委員、編集委員、海文化委員を委嘱した。

(1) 企画委員（13名）

片山雅英 大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長

春名克彦 兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長

梅村幸平	広島県環境県民局環境保全課長
壺井明彦	香川県環境森林部環境管理課長
江藤英二	大分県生活環境部環境保全課長
清水 浩	大阪市環境局環境管理部土壌水質担当課長
北山静夫	神戸市環境局環境保全部水・土壌環境担当課長
寺西 一	姫路市環境局環境政策室長
東山雅彦	和歌山市市民環境局環境部環境政策課長
高木繁行	山口県漁業協同組合総務指導部長
瀬尾一雄	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
上田康二	(一財)広島県環境保健協会地域活動支援センター長
西村睦美	(公社)山口県快適環境づくり連合会事務局長

(2) 編集委員 (10名)

石川拓哉	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
篠原 靖	関西電力株式会社火力事業本部 火力運営部門環境管理グループ チーフマネジャー
住田典子	(一財)広島県環境保健協会地域支援課長
反田 實	兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター技術参与
壺井明彦	香川県環境森林部環境管理課長
西田正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
春名克彦	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長 (知事・市長会議事務局)
藤原建紀	京都大学名誉教授
吉田 寿	(株)神戸製鋼所本社環境防災部次長
鷺尾圭司	(独)水産大学校理事長

(3) 海文化委員 (10名)

池田道治	京都府環境部環境管理課長
春名克彦	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
栖原俊樹	和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課長
白髪輝夫	岡山県環境文化部環境管理課長
梅村幸平	広島県環境県民局環境保全課長
壺井明彦	香川県環境森林部環境管理課長
松本 靖	愛媛県県民環境部環境局環境政策課長
佐藤泰弘	兵庫県漁業協同組合連合会組織統括本部指導部統括
高木繁行	山口県漁業協同組合総務指導部長
上田康二	(一財)広島県環境保健協会地域活動支援センター長